

馬産地ライター村本浩平の 2026 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. 2 | 6.11[木] ▶ 7.30[木] 開催分

※5月15日時点の情報です。

6.11 [木] ダノンレジェンド賞 【北海優駿(H1)】

ダノンレジェンド(牡16歳)は、2017年シーズンからイーストスタッドで供用されています。現役時はJpnIIBCスプリント(ダ1400m)、JpnIII北海道スプリントC(ダ1200m)を含めて、30戦14勝の成績を残しています。4歳時のGIIIカペラスで初重賞制覇を果たすと、5歳、6歳と交流重賞を席捲するような活躍を見せていきます。種牡馬入り後は地方重賞で勝ち馬を輩出し、交流重賞ではハッピーマンがJpnII兵庫ジュニアGPを優勝。中央競馬でもミッキーヌチバナがGIIIアンタレスSを制しています。今年の地方ダートサイアーランキングでは8位となっています。

6.17 [水] カラヴァッジオ賞 【栄冠賞(H2)】

初年度
産駒
デビュー

カラヴァッジオ(牡12歳)は、2023年シーズンから日本軽種馬協会静内種馬場で供用されています。現役時はGIフィーニクスS(芝6.0F)、GIコモンウェルスC(芝6.0F)を含めて10戦7勝の成績を残しています。2歳のデビューからスプリンターとしての素質を開花させると、3歳にかけて無傷の6連勝を達成します。種牡馬入り後はTenebrism(GIジャンブラ賞)、Porta Fortuna(GIコロネーションS)に加え、日本でも持ち込み馬となるアグリがGIII阪急杯を優勝と、世界各国で重賞馬を送り出しています。日本で誕生した産駒は本年度にデビューを迎えます。

6.18 [木] ウエストオーバー賞 【赤レンガ記念(H3)】

ウエストオーバー(牡7歳)は、2024年シーズンから優駿スタリオンステーションで供用されています。現役時はGI愛ダービー(芝12.0F)、サンクルー大賞(芝2400m)を含めて、13戦4勝の成績を残しています。通算成績14戦14勝をあげた名馬Frankelの産駒であり、2つのGI勝ちの他にも、GI凱旋門賞とGIKジョージ六世&QエリザベスSで2着となるなど、欧州の芝重賞を沸かせる活躍を見せました。昨年誕生した初年度産駒は当歳市場で高額で落札されており、より多くの産駒が上場される今年の1歳市場でも、活発な取引が行われていきそうです。

6.25 [木] フィレンツェファイア賞 【フロイラインカップ(H3)】

フィレンツェファイア(牡11歳)は、2022年シーズンからアロースタッドで供用されています。現役時はGI米シャンプインS(ダ8.0F)を含めて、38戦14勝の成績を残しています。GI勝利は1勝ながらも、GII、GIIIを併せて8勝をあげただけでなく、2歳から6歳までほぼ休むことなく、ダートのスプリント重賞で活躍を続けました。昨年デビューした初年度産駒は父譲りのスピード能力の高さと、仕上がりの良さが証明されており、地方競馬では2頭の重賞馬を送り出しました。昨年のNARフレッシュサイアーランキングでは、3位にランキングされています。

7.9 [木] シャープアステカ賞 【星雲賞(H3)】

シャープアステカ(牡13歳)は、2024年シーズンから日本軽種馬協会静内種馬場で供用されています。現役時はGIシガーマイル(ダ8.0F)など17戦8勝の成績を残しています。4歳時には複勝圏を外さない安定した走りで見せ、重賞を4勝。また、GIメトロポリタンH、GIBCダートマイルでも2着となります。2019年にアメリカで種牡馬入りすると、2022年には北米ファーストサイアーと、2歳総合サイアーランキングの勝馬数で首位となります。2027年には日本で誕生した産駒がデビューを迎えますが、その年の2歳戦から多くの勝ち馬が誕生していきそうです。

7.16 [木] ワールドプレミア賞 【ノースクイーンカップ(H2)】

ワールドプレミア(牡10歳)は、2022年シーズンから優駿スタリオンステーションで供用されています。現役時は菊花賞(芝3000m)、天皇賞・春(芝3200m)など12戦4勝の成績を残しています。全兄のワールドエース、半弟のヴェルトライゼンデも芝の重賞で活躍しており、自身も5歳時の天皇賞・春ではコースレコードで勝利と、スピード能力の高さも証明しました。初年度産駒は2025年にデビューしており、ロブチェンがGIホープフルSを優勝。ロブチェンは2026年のGI皐月賞もコースレコードで制しており、更に種牡馬としての評価を高めています。

7.22 [水] ヴァンゴッホ賞 【リリーカップ(H3)】

ヴァンゴッホ(牡8歳)は、2022年シーズンからイーストスタッドで供用されています。現役時はGIクリテリウムアンテルナショナル(芝1600m)など、11戦2勝の成績を残しています。ダート適性の高いアメリカンファラオ産駒ながらも、GI英オークスを制した母Imagineの影響もあってか、自身は2歳時から芝の重賞で安定した活躍を続けていきました。昨年デビューした初年度産駒は、芝・ダートの双方で勝ち上がりを見せており、総合ファーストシーズンサイアーランキングでは12位。今後も配合次第では、芝・ダートを問わない活躍が期待できそうです。

7.23 [木] ジャスティンパレス賞 【王冠賞(H2)】

新種牡馬

ジャスティンパレス(牡7歳)は、2026年シーズンからアロースタッドで供用されています。現役時はGI天皇賞・春(芝3200m)、GII阪神大賞典(芝3000m)、GII神戸新聞杯(芝2200m)など24戦5勝の成績を残しています。2歳時にはGIホープフルS、4歳時にはGI天皇賞・秋でも2着となっただけでなく、引退レースとなった6歳のGI有馬記念まで、芝の重賞で安定したレースを続けました。半兄には2024年、2025年と2年連続で国内の最多種付け頭数を記録したパレスマリスの名前もあり、弟も優れた血統背景と、安定感のある競走能力で人気を集めています。

7.29 [水] メイショウハリオ賞 【旭岳賞(H3)】

新種牡馬

メイショウハリオ(牡9歳)は、2026年シーズンからイーストスタッドで供用されています。現役時はJpnI帝王賞(ダ2000m)を連覇、JpnIII川崎記念(ダ2100m)、JpnIかしわ記念(ダ1600m)など32戦10勝の成績を残しています。初勝利は3歳の4月、初重賞勝利は4歳11月のGIIIみやこSとなったものの、そこから大器晩成とばかりに5歳、6歳、そして8歳でJpnI勝利を果たしました。半弟にはGI天皇賞・春を勝ったテーオーロイヤルの名前もあるだけでなく、ダート界のトップサイアーであるパイロの後継種牡馬として、更に父系を発展させてくれそうです。

7.30 [木] ダノンスマッシュ賞 【ポラリスサマースプリント(H3)】

ダノンスマッシュ(牡11歳)は、2022年シーズンからブリーダーズ・スタリオン・ステーションで供用されています。現役時はGI高松宮記念(芝1200m)、GI香港スプリント(芝1200m)など、26戦11勝の成績を残しています。父は名スプリンターのロードカナロアであり、高松宮記念と香港スプリントでは、父との親子制覇を果たしました。また、芝の1200m重賞7勝も父に並ぶタイ記録となっています。初年度産駒は2025年からデビューしており、総合ファーストシーズンサイアーランキングでは10位。産駒も芝とダートを問わず、スプリントでの活躍が目立っています。

今シーズンは
特別競走4レースも
「スタリオンシリーズ競走」
として開催!

- 門別6回アメリカンペイトリオット賞
- 門別11回ジオグリフ賞 新種牡馬
- 門別14回マスター賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

